

野活アウトドアキッズ③

2026

活動報告



広島市青少年野外活動センター・こども村

2026/9/15作成

実施概要

【目的】

小学生を対象に、豊かな自然の中で、異学校・異学年の仲間たちや大学生ボランティアスタッフとの出会いや関わり合いを通じて、新たな価値の発見や心の成長を目指す事業です。

また、青少年指導者の育成の場として、こどもたちへの声掛けや関わり方を学ぶための教育実践の機会を提供することも目的としています。

【定員・応募者数】

小学生 20 人・応募者 50 人

【参加者・ボランティアスタッフ】

小学生 18 人・ボランティアスタッフ 3 人

【告知の方法】

・青少年野外活動センター・こども村 WEB サイトへチラシの掲載

【ボランティア募集案内】

ボランティア募集中!!
自然の中で自分を高めよう!
参加費 集めません
第3回 野活 アウトドアキッズ

どんなことをするの？

午前はおもちゃと一緒に火おこし体験と野外炊飯を行います。異年齢の子とたちの活動支援の方法や、子どもたちを見守る視点を学びます。職員がいるため、火おこしや野外炊飯をしたことがない人も安心してお申込みください。活動後、夏野菜の収穫体験をします。



野外活動センターって どんなところ？

青少年の自然の中での活動を支援する施設です。自然・人・地域とのふれあいを通じて、青年や子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。



公益財団法人広島市文化財団
広島市青少年野外活動センター・こども村
〒731-1171 広島県広島市安佐北区安佐町小河内5135 TEL082-835-1444
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yasai-sc/>

広島市 野外教育 検索



【参加者募集案内】

参加者募集中!!
WILDに1日を過ごそう!
参加費 800円
第3回 野活 アウトドアキッズ

どんなことをするの？

摩擦熱を利用した原始の火おこし、薪での野外炊飯に挑戦します。活動の中でグループでの意思決定や、友達と協力・分担などをする場面を想定しています。初対面のメンバーとの接し方や付き合い方を学ぶ機会になります。



野外活動センターって どんなところ？

青少年の自然の中での活動を支援する施設です。自然・人・地域とのふれあいを通じて、青年や子どもたちの「社会性」や「人を思いやる心」を育みます。



公益財団法人広島市文化財団
広島市青少年野外活動センター・こども村
〒731-1171 広島県広島市安佐北区安佐町小河内5135 TEL082-835-1444
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/yasai-sc/>

広島市 野外教育 検索



野外活動センターでの体験活動

9月12日(土)
9:45 受付
10:00 はじめのつどい・アイスブレイク
10:10 火おこし体験
11:00 薪での野外炊飯
14:00 おわりのつどい
14:30 夏野菜の収穫(希望者のみ)



自然体験活動と異年齢交流を通じて、青少年の協調性や自立性を育むことを目的として実施します。そのためには、参加者の主体性が何より重要となります。お子様に企画の主旨をお伝えいたしたうえで、参加申込をいただければ幸いです。希望者を対象に、親子での農業体験を予定しています。

対象・定員 小学生・20人
申込者多数の場合は抽選となります。参加の可否は申し込み締め切り後にメールアドレスに連絡します。
募集期間 令和8年7月1日～令和8年8月26日
申込方法 右の二次元コードから申し込むことができます



開催までの流れ

- 2026/6/25 参加者の募集開始
2026/6/25 登録ボランティアスタッフへボランティアの募集を案内
2026/8/26 参加者の申込み締め切り
2026/8/28 ボランティアスタッフの申込み締め切り
2026/6/27 実施日

当日のスケジュール

9月12日（土）		参加者	保護者	ボランティア
9:10	スタッフミーティング			●
10:00	はじめのつどい・アイスブレイク	●	●	●
10:15	火おこし体験	●		●
11:00	野外炊飯（カレー）	●		●
13:30	アクティブタイム	●		●
14:00	野菜の収穫体験（ブルーベリー・とうもろこし）	●	●	●
15:00	ふりかえり			●

9月12日（土）

■はじめのつどい・アイスブレイク 担当：シュガー

（内容）

参加者（子ども・ボランティアスタッフ・職員）相互の交流促進と安心できる環境作りを目的とし、冒頭にアイスブレイクを実施しました。数集まりや共通点を探すゲームを通じた相互協力のほか、合同でのダンスなどを取り入れ、世代を超えた一体感作りを促しました。



■火おこし体験 担当：シュガー

（内容）

舞錐（まいぎり）式火おこし器を用い、摩擦熱を利用した火おこし体験を実施しました。事前に器具の使用方法や着火のポイントについて説明しました。こどもたちは自分たちで交代の順番を決めたり、互いに声を掛け合いながら取り組みました。参加者の多くが低学年（小学1～3年生）であったため、2名1組で協力して器具を操作する方法も紹介し、協同作業のきっかけ作りなどを行いました。



■野外炊飯 カレー担当：タッチー かまど担当：いっしー 燻製担当：しょうちゃん
(内容)

野外炊飯では、ソーセージ、ジャガイモ、ニンジン、タマネギを具材としたカレーライスを作りました。こどもたちはピーラーや包丁を使い、安全に配慮しながら下ごしらえを行いました。薪を入れる量で、かまどの火力調整をしたり、鍋炊飯のポイントを学びました。また、プログラムの合間に職員によるサクラチップを用いた燻製卵の調理実演もしました。調理準備から後片付けに至るまで、こどもたちが主体となって作業をしました。





■アクティブタイム

(内容)

野外炊飯終了後、保護者の方のお迎えまでの時間（約 30 分間）を活用し、自由活動（フリータイム）をしました。かまどの余熱を利用した焼きマシュマロづくりや、クラフトペンダント制作をしました。焼きマシュマロづくりでは、こどもたちが自分たちで個数を数えて平等に分け合う姿や、最年少の子への譲り合いが見られるなど、各班で思いやりのある姿が見られました。



■おやこで農業体験

(内容)

本事業終了後、希望者を対象とした親子農業体験（ブルーベリーおよびトウモロコシの収穫体験）をしました。任意参加のプログラムでしたが、こどもたちとお迎えの保護者の全員が参加しました。活動を通じて、樹木による味（甘み・酸味）の違いや、無農薬栽培における食味の良さ・品質の特徴などを直接体験することができました。



活動を充実させるための取り組みを紹介します

■アイスブレイクは必ずやります！

こどもたちが緊張して本来の主体性を発揮できない状態では、その後の「火おこし」や「野外炊飯」といった協力型の体験活動を効果的に推進することはできません。集合直後のこどもたちは人間関係が構築されていないため、会話や自発的な関わりが見られない状態です。最初にアイスブレイクを実施することで、安心して参加できる環境（心理的安全性）作りを目指しています。



■小学校低学年の子が野外炊飯をするための工夫

青少年野外活動センターで活動する学校団体の野外炊飯は、業者に食材を注文し届いたものを調理するのが一般的です。今回は参加者に合わせて調理をするために、職員が食材を準備しました。食材を切るときは、基本は輪切り。通常、お肉を使うところをソーセージに変更しました。薪の火にかけた鍋を菜箸でつついて火傷をしないように、全部切って、全部入れて、全部煮たら、完成！といった風に、できるだけシンプルにしています。

■自分で選んで作品を作る！

アクティブタイムのクラフトでは、鳥や昆虫、植物の葉、動物の足跡などをレーザー彫刻した木製ペンダント用意しました。こどもたちは自分の感性や好みで素材を選択し、色を塗って持ち帰りました。自分でデザインを選ぶことで、こどもたちの想像力や感性が発揮されました。



■保護者は送迎だけじゃない、自分にとっても豊かな時間を作ってほしい！

児童を事業へ送り出す保護者にとっても有意義な時間を提供するため、親子参加型の野菜収穫体験を実施しました。当初予定していたトマトやピーマンの収穫が困難となったため、急遽、ブルーベリーとトウモロコシの収穫プログラムへと変更しました。親子で一緒に体験できる活動を通じて、絆を深める機会作りを目指しました。